

日本体育協会

総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン

このメールマガジンは、スポーツ振興くじ (toto) 助成金を受けて配信しています。

スポーツ振興くじ (toto) 助成金についてはこちらから
(日本スポーツ振興センター HP) <http://www.jpnsport.go.jp/>

このメールは本会 HP より登録された方々へ配信させていただいております。
配信停止設定は、メール後方のご案内をご確認ください。

現在の登録件数：5,054件



スポーツ振興くじ助成事業

INDEX

➤ 〈特別企画〉 [第7回]

[「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」内容紹介](#)

➤ 〈第100号発行記念特別特集〉 [対談] 「2020年東京オリンピック・パラリンピックと総合型クラブ」

対談者 ○師岡文男氏 [上智大学文学部教授 (保健体育研究室長)]

○菊地正氏 [NPO 法人高津総合スポーツクラブ SELF 副理事長]

- ▶ [「オリンピック・パラリンピック」の魅力と1964年東京オリンピックの思い出](#)
- ▶ [2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定が持つ意味](#)
- ▶ [地域スポーツや総合型クラブが2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてできること](#)

➤ 助成金情報

申込締切：[平成26年3月31日まで](#)

➤ お知らせ

- ▶ [クラブ運営お役立ちツール](#)
 - ◎自立・自律に向けたチェックリスト
 - ◎クラブのらくらく広報
- ▶ [公認スポーツ指導者資格情報](#)
 - ◎公認クラブマネジャー・公認アシスタントマネジャー資格の取得をおススメします!
- ▶ [イベント報告](#)
 - ◎韓国のスポーツ関係者が、総合型地域スポーツクラブ視察で来日!
 - ◎〈入賞作品決定!!〉総合型地域スポーツクラブ「キャッチコピー」コンテスト
- ▶ [セミナー等情報](#)
 - ◎〈開催報告!〉ブロック別クラブネットワークアクション2013
 - ◎NPO 法人クラブネッツセミナー「ドイツと日本におけるスポーツクラブの未来」
- ▶ [報告書等情報](#)
 - ◎「スポーツ指導者育成事業推進プラン2013」を公表!!
 - ◎「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」を策定!
 - ◎スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議 (タスクフォース) 報告書について
- ▶ [「フェアプレイ」キャンペーン情報](#)
 - ◎〈40,000名達成!〉フェアプレイ宣言者が40,000名を超えました!

あくしゅ、あいさつ、ありがとう 「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーン

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data0/fair/>

公式Facebook : <https://www.facebook.com/JASA.fairplay>

2020年オリンピック・パラリンピックを日本で!

ご協力をよろしくお願いいたします!

<http://tokyo2020.jp/jp/index.php>

〔(一財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会〕

〈特別企画〉 [第7回]

「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」内容紹介

日本体育協会では、今後概ね5年を目途とする総合型地域スポーツクラブ育成の取り組みについて、「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013(育成プラン2013)」として取りまとめ、昨年7月に公表しました。

このことに関連して「育成プラン2013」を紹介する連載を行っています。

今回は連載第7回目として、「日本体育協会が取り組む各種支援方策」のうち「法人格取得に係る支援」並びに「クラブの充実・発展及び社会的認知度向上のための情報収集・提供」についてご紹介します。

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H26/2.ikusei_plan_Vol.7.pdf

また、昨年11月10日付発行の本会情報誌「Sports Japan」に、育成プラン2013に関するインタビュー記事が掲載されました!

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H25/11.ikusei_plan_interview.pdf

「育成プラン2013」の内容については、本会HP上に公開中ですので、ぜひご覧ください。

▶「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」(全文)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/doc/club_ikusei_plan2013.pdf

▶「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」について(本会HP)

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/394/Default.aspx>

[INDEXへ▲](#)

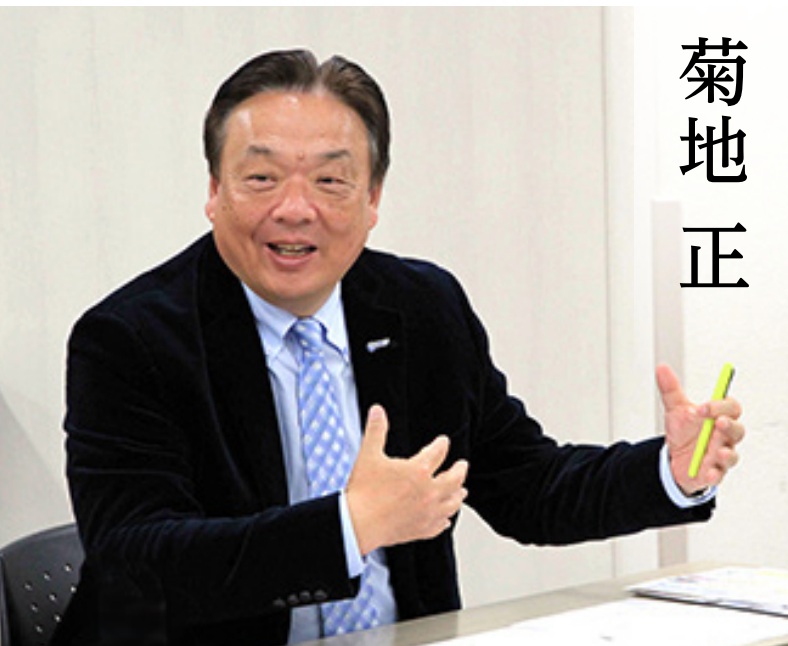
1 「オリンピック・パラリンピック」の魅力と 1964年東京オリンピックの思い出

昨年(2013年)に2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定しました。この出来事は、日本中に大きな感動と喜びを与えると同時に、「2020年に向けて日本のスポーツ界はどうあるべきか」という問いがスポーツ関係者に与えられたといえるでしょう。その問いの1つとして、「総合型クラブをはじめとする地域スポーツはオリンピック・パラリンピックとどのように関わることができるのか」ということも挙げられます。そこで今回、2020年東京オリンピック・パラリンピックと総合型クラブとの関係性について、識者の方々にお話を伺いました。

対談者

師岡 文男 氏 [上智大学文学部教授(保健体育研究室長)]

菊地 正 氏 [NPO法人高津総合スポーツクラブSELF 副理事長]



菊地正



師岡文男

「オリンピック・パラリンピック」の魅力とは

師岡(敬称略) オリンピックの1番大きな魅力は、200を超える国と地域

の人々が同じ場所に一堂に会し、その様子を世界中の人々がリアルタイムで見ているイベントであるという点です。これは国連総会でも成し得ていないことです。オリンピックでは、これまで名前も聞いたことがないような国も参加しています。「世界にはこれだけ多くの国や地域があるのだ」ということを多くの人が実感でき、特に開会式では一つ一つの国に平等にスポットライトが当たる唯一無二な世界一のイベントである点がオリンピックの最高の魅力といえるでしょう。

2つ目の魅力は、世界中の人々がスポーツを通して、感動や喜びを共通体験するという点です。スポーツには「見る」「見る」「支える」といった様々な形で関わることで、世界中の人々が競技者としてだけでなく、観戦する人、支援する人など多様な形で自分の生活に関連付けながらオリンピックを味わうことができます。

さらに、パラリンピックについて言えば、「パラリンピック」という言葉は、実は1964年の東京大会の際、日本人が考えたものです。『オリンピック憲章』にはオリンピックの根本原則として、「スポーツを行うことは人権の一つである。すべての個人はいかなる種類の差



別もなく、オリンピック精神によりスポーツを行う権利を与えられなければならず、それには、友情、連帯そしてフェアプレーの精神に基づく相互理解が求められる」と書かれています。オリンピックの実現の意味でも、パラリンピックはオリンピックとセットで開催されることに意味があるのです。障がい者スポーツの現状に目を向ければ、まだまだその環境が整備されていない状況です。今回、56年ぶりにパラリンピックが開催されることで、多くの方々に障がい者スポーツに関心を持っていただけるきっかけになることは3つ目の大きな魅力だと思います。

1964年東京オリンピックの思い出

菊地(敬称略) 1964年当時私は

中学1年生でした。50年が経過した今でも当時の感動は鮮明に覚えていますし、人生の中でも一番と言っているほど感動したイベントでした。私は小学生のときからアイスホッケーをしており、東京オリンピックを見て、「いつかは自分もオリンピックに」と思いながら活動していました。結局、オリンピック出場はかないませんでした。北海道の仲間がオリンピックに出場するなど「オリンピック」というものになりました。2020年のオリンピックでは、1964年当時に自分が感動したように、今の子ども達にその感動を味わわせてあげたいですね。

また、私はスポーツする上では「勝ち負け」の面白さ、美しさも重要であると思っています。スポーツが本源的に持つ「楽しさ」には「勝ち負け」による楽しさということも含まれていると思います。オリンピックでは、日本人が勝つ姿にぜひ感動していただきたいですし、勝利に向けて全力を尽くすこととの良さも味わってほしいです。

師岡 私は当時小学5年生、10歳でした。4つの思い出があります。

1つ目は、1964年は観光目的のパスポートの発行が始まった「第二の開国」といえる年だったということですね。外国への関心が高まり、東京オリンピックに参加する94の国名と国旗を覚え、わくわくしながら開会式

で一つ確認したことを覚えています。2つ目は、日本が豊かになっていくことを実感したことです。オリンピックの開催に向けて、例えば、給食の脱脂粉乳が牛乳になったり、東海道新幹線や首都高速道路が開通したり、幹線道路の道幅が拡張されたり、ホテルが次々と建設されたりと、劇的に日本が変わっていく様子が見えた年でした。また、外で立小便をしないなど国際的なマナーを身につけたのも、オリンピックがきっかけで、国際標準でものを考えるようになったからだといえます。

3つ目は、世界中の選手が混然一体となり入場してきた閉会式です。戦後19年、まだ戦争に負けた悲哀の影を残す当時において、日本人の旗手を外国の選手達が担いで行進していくのをテレビで見たとき、「日本が世界に認められた」感激で涙が止まりませんでした。

4つ目は、ホッケーの試合を生で観戦したことです。私は世田谷区に住んでいたこともあり、駒沢オリンピック公園で行われた、観客数が少ないホッケーの観戦に動員されました。そのときに世界トップレベルの試合を間近に見て、そのプレーの素晴らしさに驚きました。当時の日本は、ほとんど「スポーツ＝野球」という時代で、サッカーですら観客席が埋まらなかったのです。世界には「多種多様なスポーツがあること」を実感したことを覚えて

います。

菊地 私は、オリンピック期間中に、地域の小中学生で国立競技場に国旗を掲揚しに行く手伝いをしたり、開会式の様子を見せってもらったりしました。また、自宅近くの甲州街道で男子マラソンをやっていたときにアベベ選手が走っている姿を見て、その人間離れした速さには驚きました。

師岡 当時は甲州街道もどかで、沿道を埋めた方々の中にはゴザを敷いたり、割烹着姿の女性も多く見受けられました。当時はまだそのような時代でしたね。

菊地 それからオリンピックを契機に街並みが劇的に変化していくのを見て、子どもながらに「これからどれだけ発展していくのだろう」とワクワクしていました。



2020年東京オリンピック・パラリンピック 開催決定が持つ意味

スポーツ界にとっての2020年 東京オリンピック・パラリンピック

師岡 スポーツ界にとって、今回の開催決定には5つの意味があると考えています。

1つ目は、「オリンピック」や「スポーツ」に対する関心が飛躍的に向上したことです。これまで「スポーツ振興は重要だ」と言われながらも、国や都道府県のスポーツ関連予算が削減されたりすることがありましたが、開催決定により、スポーツ関連予算が大幅に増額されました。また、一般の方々も毎日のようにオリンピックを話題にするようになり、これまでスポーツに関心がなかった人達も関心を持つようになりました。

2つ目は、国民共通の目標と夢が生まれたということです。将来に対する明るい未来像を描いたり、共通の目標を持つたりすることが難しかった昨今において、「6年後までにはこうありたい」という共通の目標や夢を持つことができるようになりました。

3つ目は、スポーツ庁の設置に弾みがついたことです。これまでタテ割りに分散化されていたスポーツ行政が一元化・効率化するだけでなく、「庁」になることで予算の増額が期待できることは大きいと思います。

4つ目は、「スポーツ・フォア・オール」が推進されることです。『オリンピック憲章』には、「スポーツ・フォア・

オール」の発展を奨励、支援すること」が、「IOCの使命と役割」であると書かれています。オリンピック開催を引き受けたことで、IOC(国際オリンピック委員会)からは、「単に競技者のためのオリンピック競技大会を開催するだけではなく、オリンピックの開催を通してすべての人々が生涯スポーツを楽しむ環境を提供できる成熟社会の姿を世界に発信してほしい」と期待されているはず。オリンピック・パラリンピック開催決定を契機に、障がい者スポーツも含めた「スポーツ・フォア・オール」社会を実現することが推進され、多種多様なスポーツ種目があることも知ってもらおうチャンスでもあります。

5つ目は、「国際化」です。いまだにIF(国際競技連盟)の理事を務める日本人は多くありません。今回東京が開催地に決定したことで、各競技の日本協会が否応なくIFとの連携強化が必要になっていきます。日本のスポーツ組織を国際化させていく契機の到来です。この機会を「第3の開国」にしていくことが求められています。

この5つが日本のスポーツ界にとって、オリンピック・パラリンピック開催決定がもたらした意味だと思います。

クラブにとっての2020年 東京オリンピック・パラリンピック

菊地 クラブにとっては、「6年後」とい

う中期的な活動目標ができたと思います。個々のクラブにおいては、「自分のクラブで活動する子ども達がオリンピックに出られるかもしれない」と思って、2020年を1つの目標として活動するでしょう。また、SC全国ネットワークのようなクラブの全国組織においても、全国のクラブで共有できる目標の1つとなり得るでしょう。1クラブの取り組みだけでは、オリンピックに関わるのが難しい事柄でも、約3400クラブが力を結集すれば実現できることがあるかもしれません。いずれにしても、皆で集まって「自分達のできることを考えるきっかけになったと思います」。

加えて、「次世代の人材育成」と「世代交代」を促すきっかけになると思います。私のようなクラブ創設期に関わった者もいつかは運営主体を次世代に譲るタイミングが来ます。クラブが若者の就職先となるには、まだまだ課題は多いですが、オリンピックの大きな流れを活かして、オリンピック後に、若者達が「仕事」としてクラブに携わるようになれば良いですね。そのためには、クラブの自立・自律や認知度向上に向けた取り組みが必要になってくると思います。

師岡 「世代交代」は、まさにオリンピック・パラリンピックが来ることで促されると思います。昨年(2013年)ある区役所で講演と自由討論を行った際、7年後まで区役所で働いている方が

参加条件になっていました。2020年を意識すると自然と世代交代が促されていくものなのだと思います。

オリンピックが日本スポーツのあり方・価値観を変える

菊地 師岡先生のお話にありましたスポーツ庁の設置は、クラブにとっても大変大きな意味があると思います。現状では、クラブがトップアスリートを育てて学校現場に派遣するという役割まで担うことは難しいです。しかし、その役割を担うことがクラブの使命であるとも考えています。スポーツ庁設置の流れの中で、学校体育や学校部活動と地域の生涯スポーツ、障がい者スポーツ、トップスポーツなどの一体化が進んでいくとクラブに求められる使命の達成に向かっていくと思います。

師岡 スポーツ庁設置の話題も含め、今回の開催決定は、日本の体育・スポーツ制度を根本的に考え直すチャンスでもあります。日本では、明治維新の学制とともに西欧文化であるスポーツを学校に取り入れましたが、当初は「チャンピオンスポーツ」と「スポーツ・フォア・オール（みんなで楽しむことに重点をおいたスポーツ）」の両方の考え方が共に導入されました。しかし、当時の日本では、「富国強兵」「国威発揚」の流れの中で、学校体育や部活動で時には

行き過ぎた勝利至上主義の指導が行われ、それが今日まで受け継がれてきてしまい、少なからずスポーツ嫌いを生み出してきました。

勿論、勝利を目指して極限まで己を鍛え上げ、全力を尽くして競技することとスポーツの大切な要素であり、深い達成感と見る者を感動させる力の源であることは間違いありません。そのことは、オリンピックのモットー「より速く、より高く、より強く」に表されています。その一方で、有名な「参加することに意義がある」もオリンピックから生まれたスポーツのあり方を示す言葉です。

本来、「チャンピオンスポーツ」と「スポーツ・フォア・オール」は車の両輪のように相互補完的に一体となって推進されるべきものです。チャンピオンスポーツは「見る」「支える」がなければ成り立たず、一方でチャンピオンスポーツがなければ、憧れや感動からスポーツを始める人は減少してしまうでしょう。

日本の学校体育制度は、ハードもソフトも世界に誇れる素晴らしいのですが、学校を卒業した後、スポーツを続けていく受け皿が整備されていないという課題があります。幅広いジャンルを持ち、多様な楽しみ方がある音楽は嫌いな人はおらず、全ての人が生涯を通じて「音を楽しむ」ことができるように、スポーツもチェスやブリッジがIOC

公認スポーツである事実を伝え、人々の意識を変え、全ての人が生涯を通して「楽しむ」ことができる文化であることを伝え、環境を整備していく必要があると思います。

そこで、今回のオリンピック・パラリンピック開催決定を機に、スポーツには多様な楽しみ方と多様な種目があることを伝え、また学校体育の段階で地域スポーツと接点を持ち、卒業してからは地域のクラブでスポーツを楽しむことができる「生涯スポーツ社会」を構築するというレガシーを残していくべきでしょう。そうすればヨーロッパのように地域のクラブでトップアスリートが育ち、そのアスリートが指導者として地域や学校に戻ってくるという「好循環」の仕組みができると思います。

菊地 私がドイツのクラブを訪問した際には、地域のクラブからトップアスリートが輩出される仕組みもありましたが、私が特に魅力的に感じたのは、高齢者が元気に活動しているクラブでした。そのクラブの会員は、「ドイツでは税金が高くて大変な部分もあるが、このクラブにいれば誰も孤独ではなく、皆が支え合って暮らしている。それがクラブだ」と語っていました。日本のクラブにはそういった「地域にある自分の居心地の良い場所」自分の居場所としての機能がまだまだ弱いと思えますね。

師岡 これまで日本では、スポーツは

衣食住のように生存に必要なものではないとされて脇に置かれ、「時間や金銭的な余裕があればスポーツをする」といった感覚であったと思いますが、これからは、スポーツは「生活の一部」として捉えていく必要があると思いますし、その意識の変化をオリンピックを通じて醸成していきたいですね。



3 地域スポーツや総合型クラブが 2020年東京オリンピック・パラリンピック に向けてできること

地域スポーツが2020年
オリンピック・パラリンピックに
向けできること

師岡 「地域スポーツ」という視点で、
2つお話しします。

1つ目は、とにかく今はスポーツに「追い風」が吹いている状態ですので、今までスポーツに関係がなかった方々にも呼びかけ「スポーツを通じた地域活性化」という共通認識を地域で持つことができるという点です。ただし、ここで気をつけていただきたいのは、まずは自分たちがオリンピック・パラリンピックに対して何ができるかを考えることが先であるということです。私は、昨年9月の講演(注1)後、様々な地域で講演を依頼されました。そこでは、地域の方から「オリンピックで地域が活性化しますか」等の質問をいただきます。しかし、日本はオリンピックを立派に開催することを世界に約束したわけですので、まずは私達人ひとりひとりが「何ができるか(Give)」を考えることが先であり、それを考え実行することで、「恩恵を受ける(take)」ことができるのです。

また、よく「地方には関係がない」という話を聞きますが、そんなことはありません。文部科学省が先日(2014年1月14日)、公表した「夢ビジョン2020(注2)」にも取り上げられています。私は長野オリンピックの際に

行った1校1国運動を参考に、「1市町村1国運動」を提案しています。多くの発展途上の国々はオリンピックの直前合宿を行う金銭的余裕がありません。そこで市町村を挙げて体育施設や民宿を用意して、それらの国々の直前合宿場所として提供します。滞在費などを市町村が負担する代わりに地域の学校や施設に訪問してもらい、子ども達や地域住民と交流してもらいます。そういった取り組みは、必ず感謝されるでしょうし、地域の子どもたちにとっては、たとえ有名な選手でなくても、国の代表選手と触れ合う機会を得ることで、1964年当時私が経験したように「世界」を体感できることでしょう。

こういった取り組みは、2002年のサッカーワールドカップでカメルーン代表を受け入れた大分県中津江村(現日田市)のように、実は全国の市町村で実施できますし、それが本当の意味での「おもてなし」であると思います。また、こうした取り組みの運営主体を総合型クラブが担うことができれば、クラブの認知度向上にもつながります。2つ目は、地方行政のスポーツ振興に拍車がかかるということです。地方においても、必ずオリンピックに向けて「我が地域では何をすべきか」というテーマが議会などで取り上げられるでしょう。私はその前に、地域スポーツ団体が自ら積極的に提案していくべきだと思います。



注1)
師岡氏は、2013年9月8日に開催された、「2020年オリンピック・パラリンピック開催地決定を迎える会」において、「招致活動で得たもの」をテーマに講演を行った。

注2)
夢ビジョン2020(文部科学省版)について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/01/1343297.htm

例えば、オリンピックに関連して、今後全国的に行われる活動として聖火リレーがあります。1964年の時には、聖火リレーは太平洋戦争の激戦地だった沖縄からスタートしました。当時、返還前で日本国旗を掲げることができなかった沖縄県で日の丸のユニフォームを付けて走る姿が人々の感動を呼びました。そのように、我が地域



を走る意味を伝えることができれば、聖火リレーを自分達の町に呼ぶことができるかもしれません。

さらに言えば、「生涯スポーツの核たるクラブの拠点施設を聖火リレーが通るべきだ」という提案もできると考えられます。

クラブが2020年

オリンピック・パラリンピックに向けてできること

菊地 クラブとしてできることは、師岡先生とお話する中でたくさん出て

きましたし、クラブであれば実現可能だと思っています。私が住む神奈川県川崎市においても、2020年に向けて運動施設の改修などの話題が出ています。クラブとして大事なことは、自分達が持つ資源を活用しながら思い切った取り組みをみることです。そして、自分達には何ができるのかということ、夢を持って語り合うことでしょう。

師岡 私が所属する上智大学では、

2019年ラグビーワールドカップと2020年オリンピックに向けて大学としてできることを検討する全教職員を対象としたプロジェクトを立ち上げました。それと同様に、クラブが主体的に地域の議員や町内会の役員や商店街など、様々な人達を集めて、地域でオリンピックに向けてできることについてアイデアを出し合うという活動をし

てみてはいかがでしょうか。例えば、まだどこの国とも姉妹都市になっていない国と姉妹都市提携するというアイデアは面白いと思います。また、個々のクラブ単位では、オリンピック種目の紹介やオリンピック選手を招聘したイベントの開催ということも考えられるでしょう。

クラブこそパラリンピックを

応援しましょう！

師岡 パラリンピックの話をしします。

『オリンピック憲章』の「オリンピズムの根本原則」には、「スポーツを行うことは人権の1つである」「すべての個人はいかなる種類の差別もなく、オリンピック精神によりスポーツを行う機会を与えられなければならない」と書かれています。このオリンピズムの原則はクラブにも共通している考え方だと思えます。障がい者、健常者分け隔てなく参加できる総合型クラブ運営をして、パラリンピックを特に積極的に応援してほしいですね。

菊地 私のクラブには障がいのある方も所属していますが、その方々もオリ

ンピックの開会式に何かしら参加できないかと思いを馳せています。障がいのある方でも参加できるクラブだからこそ、オリンピックだけでなく、パラリンピックに向けた活動も展開できるのではないかと思います。

「おもてなし」のために「地域を知る」「国を知る」

師岡 オリンピック・パラリンピック

を通じて、日本人は、「自分たちの地域にある魅力」や「日本のスポーツが持つ魅力」に気づくことも必要です。先ほどからお話ししている「自分達ができること（＝おもてなし）」を考える上では、「自分の地域」について知らないという文化はできません。また、スポーツ文化に関しては、必ずしも西欧スポーツ文化だけが素晴らしいというわけではなく、日本の武道が持つ所作や礼儀、「心技一体」という考え方や、日本にも世界にアピールすべき文化があると思えます。こういった自分たちの地域や国が持つ魅力にも目を向けてみる必要がありますね。

まとめ…総合型クラブと

2020年東京オリンピック・

パラリンピックは

どのように関わるか

菊地 2020年オリンピックに向けて

は、個々のクラブによる取り組みとSC全国ネットワークのようなネットワーク組織による取り組みという2つの視点で考える必要があります。個々のクラブにおいては地域の様々な団体を巻き込んで、SC全国ネットワークにおいてはクラブ同士で集まって、色々なアイ

テアを出し合うことが、これからまず取り組むべき事柄だと思っています。

現在、クラブが抱えている大きな課題としては、クラブの「自立・自律」「認知度向上」の2つがあります。オリンピックは、これらの課題を解決するチャンスであり、SC全国ネットワークが一つの目標に向かってまとまるチャンスでもあると思います。そのためには、個々のクラブがそれぞれの地域で積極的にオリジナリティのあるアイデアを関係各所に提案していく、そして各クラブの取り組みをSC全国ネットワークが責任を持って取りまとめていく、ということが必要になってくるでしょう。

現在、私が所属している(一社)神奈川県総合型スポーツクラブ連絡協議会(KSN)では、2020年オリンピックに向けて、全加入クラブで英語教室の展開を始めています。英語ができれば、ボランティアをしたくてもできませんので、多くの方が、オリンピックまでには英語を怖がらずに話せるようにしていきたいと思っています。

師岡 総合型クラブが2020年までに取り組むべき事柄について、4点お話しします。

1つ目は、オリンピックの開催を通じて、レガシー(遺産)を開催地に残さなければならぬということです。『オリンピック憲章』には、「IOCの使命と役割」として「オリンピック競技大会の良い遺産を、開催国と開催都市に残

すことを推進すること」と書かれています。日本の場合、それは超成熟社会においてスポーツによって人々が幸せに暮らすことのできる立派な社会であることを世界に示すことです。つまり、世界に生涯スポーツ社会としての日本を見せるということです。そして、その活動主体は国民一人ひとりですが、核となる組織は総合型クラブだと思います。

2つ目は、これまでスポーツに関心のなかった地域住民に対してもアピールできる機会ができたということです。スポーツに限らず、オリンピック関連の活動を総合型クラブが行うことで、地域の方々に関心を持ちます。その方々を巻き込んでいくことで、クラブが地域を盛り上げる「軸」となります。

3つ目は、「情報の共有・ネットワーク化」です。私は、都体協の総合型クラブ育成委員として、また千代田区クラブ設立準備委員長としてこれまで活動してきましたが、そこで感じたのは、「クラブ間で情報をもっと共有化すべき」ということでした。そこで、(一社)東京スポーツリンクの副理事長として、都内全クラブを束ねて情報公開にも取り組みましたが、全国規模のネットワークを構築する必要があると思っています。約3400のクラブが一つになり行動を起こすことができれば大変大きな力になると思います。

4つ目は「するスポーツ」の拡大につ

ながるということです。オリンピック競技大会自体には、一般の方は「見る」「支える」という関わり方しかできませんが、「見る」「支える」を通じて、「する」につなぐと思っています。2021年5月には誰でも参加できる「ワールドマスタースゲームズ」が関西で開催されます。この流れを活かして、スポーツをしていない方が、生活習慣としてスポーツを行う社会に変化させていくことが大切です。クラブが果たすべき役割は「する」場所の提供にあります。最近では、アルツハイマー病の予防・改善に有酸素運動が効果的であることが証明されたそうです。医療費削減のためにもスポーツを「する」場所を提供する総合型クラブに寄せられる期待は大きいと思います。

終わりに

師岡 「6年後」という期間が大変良いと思います。「10年後」だとまだ先のこのように感じますが、「6年後」は、意外とすぐにやってくるという感じがします。したがって、「今、行動しよう」という気持ちを私たちに抱かせてくれる現実的な数字と言えます。

また、オリンピック憲章(注4)を読んだことがある方は意外と少ないです。ので、ぜひ一読していただきたいですね。

(終了)

■師岡 文男(もろおか ふみお)

上智大学文学部教授(保健体育研究室長)。日本オリンピックアカデミー前理事。世界最大のスポーツ組織、国際スポーツ団体総連合(スポーツアコード)前理事。東京都スポーツ振興局招致推進部アドバイザー。文部科学省科学研究費受給研究「オリンピック競技大会の招致問題に関する総合的研究」をはじめ、オリンピック・パラリンピック競技大会に関する造詣が深い。また、東京都のスポーツ振興を目的とした「(一社)東京スポーツリンク」の副理事長として、総合型地域スポーツクラブの振興にも携わっている。昨年(2013年)、東京商工会議所で開催された招致委員会・東京都共催「2020オリンピック・パラリンピック開催都市決定を迎える会」において、「招致活動で得られたもの」をテーマに講演を行った。

■菊地 正(きくち ただし)

NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF副理事長。神奈川県川崎市で平成18年に学校を拠点として同クラブを設立。会社経営で培ったノウハウとリーダーシップを発揮し、地域から愛されるクラブづくりに尽力している。クラブは、文部科学省「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」事業を受託し、「拠点クラブ」としても活動している。現在、公益財団法人日本体育協会地域スポーツクラブ育成専門委員会中央企画班員、日本体育協会総合型クラブ公式メールマガジン編集委員長を務める。

助成金情報

申込締切：平成26年3月31日まで

- ▶ 第26回地域福祉を支援する「わかば基金」(社会福祉法人NHK厚生文化事業団)
[3月31日(月)当日必着]
<http://www.npwo.or.jp/info/2014/26.html>
- ▶ 「LUSHチャリティバンク」助成(東日本大震災復興支援活動)(株式会社ラッシュジャパン)
[2月28日(金)、当日消印有効]
<http://www.lushjapan.com/ethical/charitybank/>

[INDEXへ▲](#)

お知らせ

◆ クラブ運営お役立ちツール ◆

日本体育協会では、総合型クラブで活動される方を対象に、より充実したクラブ運営の一助となるよう2つのツールを作成しています。

《クラブ運営の自己評価・点検ツール》

- ▶ 「自立・自律に向けたチェックリスト」
<http://www.japan-sports.or.jp/publish/local/tabid/936/Default.aspx#02>

《クラブ運営の広報活動ツール》

- ▶ 「クラブのらくらく広報」
<http://www.japan-sports.or.jp/publish/local/tabid/936/Default.aspx#01>

◆ 公認スポーツ指導者資格情報 ◆

◎公認クラブマネジャー・公認アシスタントマネジャー資格の取得をおススメします！

日本体育協会では、クラブ業務を合理的に行い、効果的な事業計画を企画・立案する上で必要となる一定以上の専門的な知識・技能を身に付けた人材を充実させるため、「公認クラブマネジメント資格」講習会を実施しています。

公認クラブマネジメント資格には、クラブ運営を中心的に担う方を想定した「公認クラブマネジャー」と、クラブマネジャーとともにクラブ運営を補佐する方を想定した「公認アシスタントマネジャー」の2つの資格があります。

ご自身のクラブの自立・自律に向けて、ぜひ本会公認クラブマネジメント資格を取得してみませんか。

詳しい資格内容や講習会情報についてはこちらから

- ▶ クラブマネジャー
<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/221/Default.aspx>

※平成25年度の養成講習会については、すでに申込みを終了しています。なお、平成26年度の養成講習会については、平成26年4月頃に申込み受付を開始する予定です。

- ▶ アシスタントマネジャー
<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/220/Default.aspx>

※養成講習会の日時・会場等については、各実施団体に直接ご確認ください。

◆ イベント報告 ◆

◎韓国のスポーツ関係者が、総合型地域スポーツクラブ視察で来日!

去る2月3日(月)、韓国国会議員のアン・ミンソク氏及び文化体育観光部(韓国におけるスポーツ担当省)のキム・ジョン第2次官をはじめとするスポーツ関連機関・団体関係者が、日本の総合型地域スポーツクラブを視察のため来日しました。

<http://www.japan-sports.or.jp/local/news/tabid/84/Default.aspx?itemid=2764>

◎<入賞作品決定!!>総合型地域スポーツクラブ「キャッチコピー」コンテスト

SC全国ネットワーク設立5周年記念事業として、総合型地域スポーツクラブ「キャッチコピー」コンテストを行いました。

全国の総合型クラブから312点の応募が寄せられ、審査の結果、最優秀作品1点、優秀作品2点を決定しました!!

本コンテストへのたくさんのご応募ありがとうございました。

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/907/Default.aspx>

◆ セミナー等情報 ◆

◎<開催報告!>ブロック別クラブネットワークアクション2013

本事業は、地域スポーツクラブ関係者が抱える課題を解決する糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックにて開催されました!

現在、全てのブロックの開催報告を公表していますので、ぜひご覧ください!

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

◎NPO法人クラブネッツセミナー「ドイツと日本におけるスポーツクラブの未来」

NPO法人クラブネッツでは、地域スポーツクラブ先進国であるドイツからスポーツクラブ関係者を招き、日本のスポーツクラブが目指すべき将来像について考えるセミナーを開催します。

スポーツを通じた地域づくりや市民活動の活性化を目指す方はぜひご参加ください。

日 時：平成26年3月15日(土) 10:20~16:40 ※17:00~19:00 懇親会

場 所：日本大学文理学部 百周年記念館 国際会議場

参加費：6,000円

懇親会費：3,000円

申込締切：平成26年2月28日(金)

▶ 申込みなど詳細はこちらから

<http://www.clubnetz.or.jp/?p=1611>

◆ 報告書等情報 ◆

◎「スポーツ指導者育成事業推進プラン2013」を公表!!

日本体育協会では、スポーツ指導者育成事業の今後概ね5年間の方針を示した「スポーツ指導者育成事業推

ラン2013」を公表しました。

これは本会が目指す「スポーツ立国の実現」のため、スポーツ指導者のさらなる量的拡大と質的向上を目的とするものです。本プランでは有資格指導者の拡充など4つの基本方針とそれに基づく重点施策を策定し、施策ごとに数値目標を設定しました。

本会では今後、プランに示された目標の達成を通して、望ましい社会の実現に貢献するため各種施策を推進していきます。

本プランの内容については、本会HP上に公開中ですので、ぜひご覧ください。

▶ 「スポーツ指導者育成事業推進プラン2013 –『スポーツ立国の実現』に向けて–」(全文)

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/katsudousuishin/doc/plan01.pdf>

▶ 本会が現在実施しているスポーツ指導者育成事業について

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/63/Default.aspx>

◎「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」を策定!

スポーツの意義や価値が改めて問われている昨今、日本体育協会では、スポーツ指導者の望ましい考え方や行動についてガイドラインを策定しました。

本ガイドラインでは「スポーツの価値」「プレーヤーズファースト」「フェアプレー」の視点から、安全で、正しく、楽しいスポーツ活動をサポートするためのプレーヤーと指導者の望ましい関係づくりについて解説しています。

また、暴力やハラスメントなどの反倫理的行為が起きる背景や影響、指導者としての注意点なども網羅しています。

総合型クラブの現場で活動されているスポーツ指導者をはじめ、運営スタッフやクラブ会員の保護者などスポーツに関わる皆さまに読んでいただき、本ガイドラインの趣旨を共有することで、スポーツ界から反倫理的行為を根絶するための一助となれば幸いです。

▶ 「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」

<http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/677/Default.aspx#book06>

◎スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース) 報告書について

文部科学省では、スポーツ指導において暴力を行使する事案が明らかになったことを受け、「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)」を設置し「新しい時代にふさわしいスポーツの指導法」のあり方について検討を行ってきました。

このたび、本タスクフォースの報告書がまとまり、公表されました。

我が国のスポーツ指導の場から今後、暴力が一掃されるよう、皆さまのご協力をお願いします。

▶ スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース) 報告書

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/017/toushin/1337250.htm

また、本報告書については書籍としても販売されておりますので、ぜひお買い求めください。

▶ 私たちは未来から「スポーツ」を託されている新しい時代にふさわしいコーチング

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/detail/1341273.htm

◆「フェアプレイ」キャンペーン情報◆

◎<40,000名達成!>フェアプレイ宣言者が40,000名を超えました!

日本体育協会では、社会におけるスポーツの価値をより高めていくこと、スポーツ界を中心に「フェアプレイ」を社会全体に浸透させ、日本を元気にしていくことを目的に「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを実施中です。

多くの総合型クラブ関係者の方々にもフェアプレイ宣言していただき、フェアプレイ宣言者が40,000名を超えました!

これからも「フェアプレイ」を広げるためにキャンペーン活動を続けてまいりますので、皆様のご協力をお願いします!

また、本キャンペーンの公式Facebookも公開中です。

Facebookをご利用の方は、ぜひ本Facebookページにアクセスいただき、「いいね!」や「シェア」を押していただくなど、本キャンペーンのPRにご協力をお願いします。

▶ 「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーン公式Facebook

<https://www.facebook.com/JASA.fairplay>

▶ フェアプレイ宣言など、詳しくはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data0/fair/>

●公式メールマガジンへの登録をおススメください!

公式メールマガジンをご愛読いただき、ありがとうございます。

おかげさまで、現在約5,000の登録をいただいております。

このメールマガジンは、総合型クラブに少しでも関心のある方には、どなたでも無料でお送りしています。

ぜひ周りの方にも本メールマガジンをおススメください!

【登録方法】

- 1) 日本体育協会HPのトップページの中央にある「総合型地域スポーツクラブ」をクリック
- 2) 下段の「メールマガジン」をクリック
- 3) 「登録・退会」をクリック
- 4) 「登録する」をクリック
- 5) 登録フォームに、お持ちのメールアドレスを入力(2回)
- 6) 登録確認画面へ(完了)

▶ メールマガジンの登録(無料)・配信停止(退会)

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/516/Default.aspx>

※メールアドレスを変更される場合は、上記ページで一度退会手続きをした後、再度登録手続きを行ってください。

[INDEXへ▲](#)